

# 在宅医療の推進について

## 【調査の目的】

昨今、医療へのニーズが多様化する中で、療養場所についても、従来の「病院」だけでなく、様々な希望を持たれる方が増えてきています。

県では、末期がんの患者さんなど医療の必要性が高い方でも、自宅や施設などの望んだ場所で安心して療養できるように、生活に密着した医療を提供できる体制づくりを行っているところです。

そこで、皆さんのご意見をお聴かせいただき、今後の施策の参考にさせていただきます。

## 【活用状況】

第7次福岡県保健医療計画の中間見直しの基礎資料とします。

(保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課)

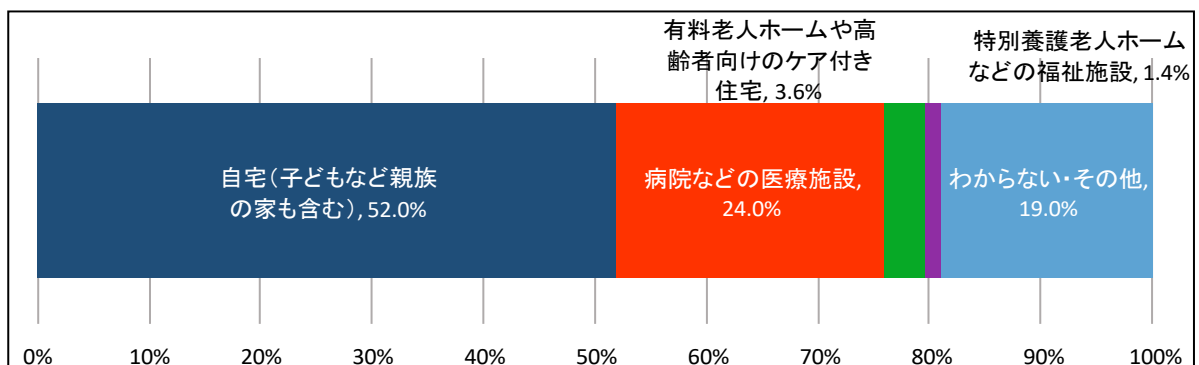
## 問1》 治る見込みがない病気になった場合、どこで最期を迎えたいか。

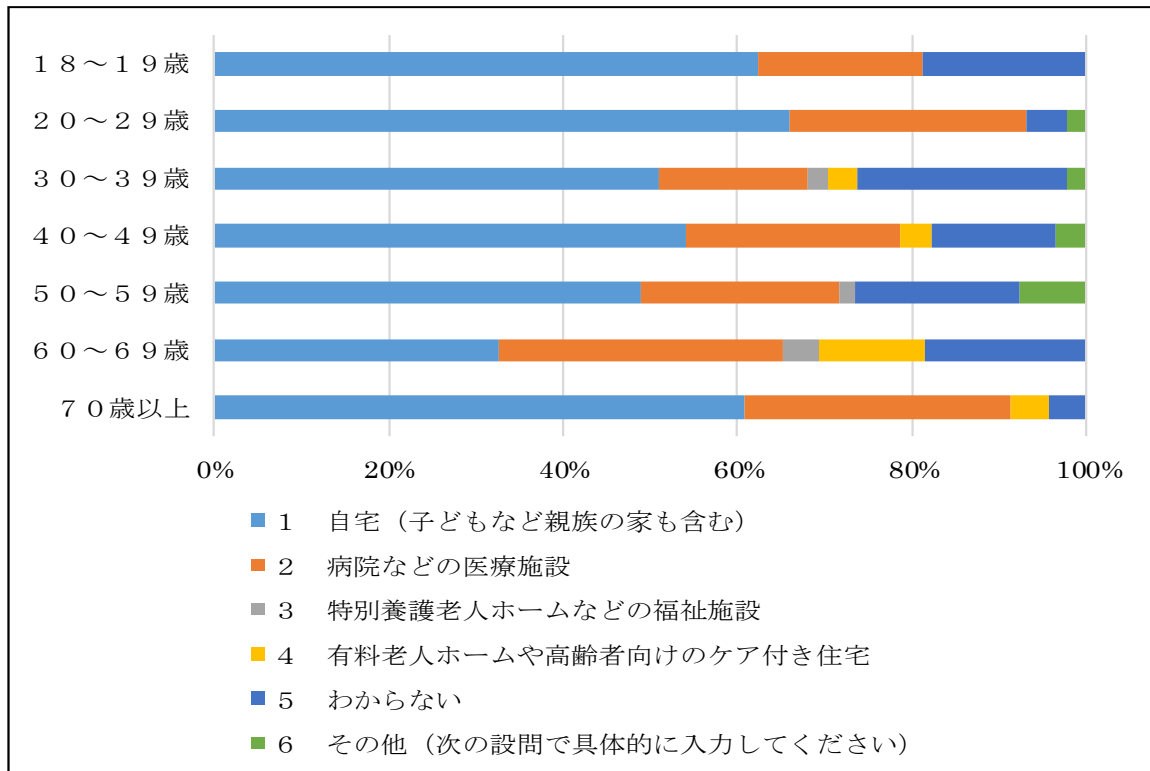
(N=358 選択は1つのみ)

1 自宅(子どもなど親族の家も含む)	52.0%	186人
2 病院などの医療施設	24.0%	86人
3 特別養護老人ホームなどの福祉施設	1.4%	5人
4 有料老人ホームや高齢者向けのケア付き住宅	3.6%	13人
5 わからない	16.2%	58人
6 その他	2.8%	10人

## 【6 その他(抜粋)】

- ・ 動ける間は自宅にいたい、後はどこでも良い。周りの人に一番迷惑のかからない所にいたい。
- ・ その時に居たい場所。
- ・ ホスピス。
- ・ 体調の状況にもよるが、家族に介護の負担がかかりそうなら、病院など。緩和ケアなら、それなりの所を探し、一人である程度出来るなら家かも知れない。
- ・ もし自分がそうなった時に、周囲に迷惑がかからない最適だと自分が感じる場所。
- ・ 一番印象深い場所(旅先や転勤で住んでいた地域)。
- ・ ホスピスで生活し最後は自宅がいいが介護で迷惑はかけたくない。





- 全体では、自宅以最期を迎えたいと回答した方が52.0%で半数以上を占めている。
- 年齢別では、60～69歳で自宅以最期を迎えたいと回答した方が32.4%と最も低く、病院などの医療施設以最期を迎えたいと回答した方と同率となっている。理由として、家族に迷惑をかけたくない、家族に負担をかけたくないとの回答が多くみられた。

問2》(※ 問1で「1(自宅)」と回答された方のみ)最期まで自宅で過ごすことは、実現可能だと思うか。

(N=186)

1 実現可能だと思う	46.8%	87人
2 実現は難しいと思う	51.6%	96人
3 未回答	1.6%	3人

問3) 『治る見込みがない病気で余命が限られているのなら、住み慣れた自宅で最期を過ごしたい』という意見があるが、そのためにはどのような条件が必要か。

(N=358 複数選択可 回答件数 1,061)

1 介護してくれる家族がいること	38.8%	139 人
2 家族に負担があまりかからないこと	73.2%	262 人
3 急変時の医療体制があること	33.0%	118 人
4 自宅に往診してくれる医師がいること	33.0%	118 人
5 家族の理解があること	42.5%	152 人
6 訪問看護が受けられること	18.4%	66 人
7 ホームヘルパーなどの訪問介護が受けられること	10.1%	36 人
8 自宅が介護できる住居構造になっていること	11.5%	41 人
9 経済的に余裕があること	34.6%	124 人
10 その他	1.4%	5 人

【10 その他(抜粋)】

- ・ 緩和ケア必須だと思う。どこで最後を過ごしてもよいけど痛いのはみんな嫌だと思う。
- ・ ほぼ全ての設問が当てはまるのが望ましい。
- ・ 全てにチェックを入れたい。全ての条件が整わない限り、在宅療養は難しい。
- ・ ターミナルになる前に、ある程度自分の意思を周囲に示しておくといいと思う。そのためには病気の本人も情報を提供してもらわなければならない。急変時には病院で治療を受けたい、延命治療は望まないのでも自宅で可能な限りの医療を受けたい等、具体的な取り決めをしておくとも家族も動きやすいとは思いますが、現場は難しいかもしれない。

問4) 在宅での療養生活を支える役割を持った専門職が、自宅を訪問し、ケアを行うサービスのうち、知っている訪問職種(サービス)

(N=358 複数選択可 回答件数 1,438)

1 医師	76.5%	274 人
2 看護師	64.8%	232 人
3 歯科医師・歯科衛生士	37.7%	135 人
4 薬剤師	19.0%	68 人
5 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	24.9%	89 人
6 介護支援専門員(ケアマネジャー)	62.6%	224 人
7 ホームヘルパー	76.0%	272 人
8 (養成講座を受けた)在宅ボランティア	17.0%	61 人
9 保健師	23.2%	83 人

問5》かかりつけ医を持っているか。

(N=358)

1 持っている	52.2%	187 人
2 持っていない	47.8%	171 人

問6》人生会議について知っているか。

(N=358)

1 知っている	6.7%	24 人
2 知らない	93.3%	334 人

**※ 「人生会議」とは**

もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって家族に近い人、医療やケアのチームの人たちと繰り返し話し合いを行い、共有する取組みです。「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」とも言います。